

食品業界研究会の活動の方向性について

1. 当会の現状

研究会創立後25年を経過し、その間会員の変化はあるものの長期に渡り活動している研究会である。当会は、食品製造業のみならず農業から食品小売業までを対象とした幅広い中小企業者の経営支援に役立つツール開発や知見、知識等の取得を目的に活動している。

当研究会の特徴は分科会活動による、診断ツール開発やより専門的な分野の研究活動である。

【今までの主な分科会活動内容】

平成15年度：診断ツールとして「食品製造業信頼性評価基準」を開発。中小企業経営診断シンポジウムにて会長賞を受賞。

平成24年度：診断ツールを使用した惣菜メーカーの診断実務と報告（実務ポイント付）。

平成25年度：ホームページをオープン。

平成25年度：タイ王国進出食品製造業の現地視察研究。

平成26年度：「イノベーション東北」に参加。東北某食品卸企業のネットショップ構築支援を実施。「活動成果プレゼンコンペ大会」にて成果発表（実務ポイント付）。

平成26年度：農商工連携現場視察「鋸南町勝山漁業組合」見学。

平成27年度：イノベーション東北」の活動内容を「若手中小企業士シンポジウム」にて発表。

平成27年度：株式会社北上デリカ様（岩手県）工場見学会。

平成27年度：「企業診断ニュース」への寄稿。

平成28年度：台湾進出食品製造業の現地視察研究。

平成28年度：ダイニングカフェの経営診断と収益拡大に関する助言（実務ポイント付）。

平成28年度：6次産業化現場視察「柏市農家レストランさんち屋」見学。

平成29年度：「東京の食品製造業研究」を実施。「活動成果発表プレゼン大会」にて成果発表。

平成29年度：6次産業化現場視察「柏市野菜レストランSHONAN」見学。

平成30年度：カゴメ野菜生活ファーム富士見見学。TOKYO SMECAに寄稿。

平成30年度：「東京の食品製造業研究」活動の成果について冊子化。

平成31年度：「HACCPに関する研究」を実施。

平成31年度：「食品のトレンド（モノ・コトに関する）研究」を実施。

2. 当研究会の目標

- ・会員がより高度な知識や知見を得られ、診断士としてのスキルアップを図ることができる。
- ・会員がより多くのネットワークを構築して、診断士としての活動範囲を拡大することができる。
- ・食品関連企業や関連団体に広くPRし、食品関連企業等から経営診断機会や経営支援依頼を得ることができる。

3. 令和2年度の活動の方向性（案）

※分科会については固定化せず、適宜設置（解散）する。また、新型コロナの影響下において従来の集合型での分科会開催ではなく、Web型の開催を推進する。

- ① 毎月の例会については、会員のみならず、より高度な知識習得等のため、外部専門家講師による講演を取り入れる。また、Web開催を推進する。
- ② 新型コロナの影響のもと、今後は「With コロナ」を前提としたZoomの活用等非対面型での中小企業者支援スキルを身に着ける。
- ③ 研究会として経営診断機会や経営支援依頼を得ることができるようなPR活動に努めると共に雑誌寄稿や出版等について検討を行う。

以上